

未来を拓く源泉「デザイン資源」の可視化・活用に向けて

Toward the Visualization and Utilization of “Design Resources” as Sources for the Future

経済産業省 商務・サービスグループ デザイン政策室

原川 宙、三浦 敏郎、下藤 菜々子

原川：室長補佐／平成 24 年特許庁入庁。意匠審査官。令和 3 年 7 月より現職。

三浦：係長／平成 30 年東北経済産業局入局。令和 4 年 5 月より現職。

下藤：係長／平成 31 年中国経済産業局入局。令和 4 年 5 月より現職。

1 はじめに／調査実施の背景

経済産業省デザイン政策室では、企業や地域の活性化、社会課題の解決、新たな文化創造に資するデザインの活用をさらに拡大するため、2023 年 1 月に「これからのデザイン政策を考える研究会」を設置しました。デザイン政策に関する研究会は、2018 年に「デザイン経営宣言」を発表した、産業競争力とデザインを考える研究会以来となります。

これからのデザイン政策を考える研究会では、「開拓」「戦略」「資源」「人材」「地域」の 5 つのテーマについて有識者委員の方々にご議論いただき、そのうち「資源」のテーマに関しては、国内のデザイン資源のアーカイブ化やデザインミュージアムの必要性について多くの言及を頂戴しました。

我が国のデザインは世界的にも高く評価されているものの、デザイン先進国と呼ばれるイギリスやデンマークなどの諸外国とは異なり、デザインを専門に取り扱う大規模なミュージアムが存在しません。そのため、日本では自国の生活文化を形成してきた様々なデザインを、領域横断的に検索可能な形でアーカイブ化できておらず、このデザインミュージアムの必要性に関する議論は、デザイン業界を中心に半世紀以上に渡って存在しています。

その背景として、デザイン資源が具体的に何を指すのか、またアーカイブすることでどのように活用できるのか、学術的議論の積み重ねや専門家の育成、社会の共通認識を形成する場が不足していること、デザインを主テーマとする施設が極めて少ないこと等の影響が考えら

れます。

研究会の議論では、「人の生活の well-being を向上させる、人と自然に調和的な様々な知恵・工夫・イノベーションの結晶」と言えるデザイン資源について、以下の 3 つの役割を有するのではないかと示唆を頂戴しました。

- ①デザインを学ぶ際の知的基盤としての役割
(対象：デザインを学ぶ学生や現役のデザイナーなど)
- ②地域産業の活性化や文化創造の源泉としての役割
(対象：産地やメーカー、地域の市民など)
- ③海外に対するジャパンデザインの発信源としての役割
(対象：インバウンドや海外のデザイン業界など)

このようにデザイン資源は、VUCAとも表現される先行きが見えない曖昧で不確実な現代において、デザイナー、メーカー、ユーザーの知的基盤としての活用が考えられるほか、地域ならではの特徴や魅力の発見、これを起点とした地域の産業活性化・文化創造、観光等における広範な活用が期待されます。その具体的な活用に向けた最初の一步として、「そもそも我が国にはどれほどのデザイン資源があるのか」を把握するため、デザイン資源を所蔵する全国各地の企業ミュージアム等の施設調査を実施しました。

2 調査概要および結果

まず調査対象について、イギリスやデンマークなど、海外のデザインミュージアムの多くが収蔵しているプロダクトデザイン、グラフィックデザイン、パッケージデザイン、ファッションデザインに絞り、主に明治時代

以降の量産できるものを収蔵している国内施設（企業ミュージアム、博物館、美術館、郷土資料館等）を調査対象としました。

その結果、規模の大小含めて、デザイン資源を所蔵する施設が、全国に少なくとも1,500以上存在することが明らかとなりました。

なお、今回の調査では、サインデザインや空間デザイン、建築や町並みなど、その場所と一体不可分であり、施設内に収蔵することが難しいデザイン資源は本調査の対象に含めていないため、それらを含めると、我が国にはさらに膨大な数のデザイン資源が存在することが見込まれます。

表1は、今回の調査により把握できたデザイン資源を所蔵する施設及びデザイン資源の一例を列挙したものです。日本はデザイン資源大国と言え、多くのデザイン資源が全国各地に分散して保存されていることが調査から明らかとなりました。

海外デザインミュージアムのように、一つの大規模な施設に一括して所蔵する形態とは異なりますが、この各地における分散保存を我が国の特徴として捉え、例えば、デザインをテーマにした日本各地を巡るデザインツーリズムの展開に繋げていくこともできるのではないのでしょうか。日本のデザインは海外からの評価も高く、コロナ禍によって一旦止まってしまったインバウンドの回復に

も貢献し得るものと考えられます。

また、次代の創作を生み出す知的基盤としての役割の観点からは、収蔵・保管されている工業製品等のデザイン資源に紐付く「特許・実用新案」「意匠」「商標」の情報も併せて、新たなクリエイション、イノベーションに寄与する源泉・資産であることは言うまでもありません。

3 おわりに

今回の調査で浮かび上がった1,500以上の施設の規模・経営状況は様々ですが、所蔵するデザイン資源の重要性が正しく認識されていない場合には、保存場所の制約から廃棄されることや、国外へ流出することも想定されます。

我が国として後世に残すべきデザイン資源とは何か。それらを所蔵する施設といかにして連携し、デザイン資源の具体的かつ継続的な活用につなげていけるか。浮上しては消え、浮上しては消えを繰り返す我が国のデザインミュージアムの在り方について、デザイン業界内にとどまることなく、開かれた議論及び検討を継続してまいります。

※本稿は、筆者の個人的見解を含むものであり、組織の公式見解を示すものではありません。

表1 デザイン資源を所蔵する施設の例

| | 施設名 | 所蔵するデザイン資源の例 |
|-------|---------------|----------------------------------|
| 北海道 | 土の館 トラクタ博物館 | 国産トラクタ第1号機をはじめとするクラシックトラクタ |
| | せんとびゅあ | 織田コレクションを中心とした家具デザインアーカイブス |
| | ニッカミュージアム | 初号ボトルをはじめとするウイスキーボトル |
| 東北 | TDK歴史みらい館 | TDKの電子部品が利用されたテレビやレコードプレイヤーなどの家電 |
| | 福田繁雄デザイン館 | 福田繁雄氏のグラフィックデザイン（ポスター、立体作品など） |
| | 東北歴史博物館 | 木工等の旧工芸指導所試作品 |
| 関東 | たばこ塩の博物館 | 商品、企業ポスター、たばこ・マッチなどのパッケージ |
| | 地下鉄博物館 | 地下鉄車両 |
| | セイコーミュージアム銀座 | ウォッチ、クロック、和時計 |
| 中部 | 資生堂企業資料館 | 資生堂の商品、ポスター、新聞・雑誌広告、コスチューム |
| | INAXライブミュージアム | タイル、古便器（トイレ）、テラコッタ、土管 |
| | トヨタ博物館 | 日米欧の代表的な車両、ポスター、自動車玩具 |
| 近畿 | 大阪中之島美術館 | 早川良雄氏のポスター、モダンデザインの流れを示すポスター、家具等 |
| | パナソニックミュージアム | テレビ、ラジオ、白物家電、電池応用商品 |
| | 神戸ファッション美術館 | ドレス、服飾関連書籍 |
| 中国 | マツダミュージアム | ファミリア、ロードスターなどの歴代のマツダ車 |
| | 島根県立石見美術館 | ドレス等の服飾関連資料、ファッション雑誌、ファッション写真 |
| | 夢二郷土美術館 | 竹久夢二氏の肉筆画 |
| 四国 | 愛媛県美術館 | 杉浦非水氏のポスター、装丁・表紙原画 |
| | 新居浜市美術館 | 秋月繁氏が収集した郷土玩具、それらをモチーフに制作した作品 |
| | 香川県立ミュージアム | 高松三越のチラシ、森繁治商店のマッチラベル |
| 九州・沖縄 | TOTOミュージアム | 歴代のTOTOの製品、水回り商品 |
| | 大分香りの博物館 | 19～20世紀に製造された香水瓶 |
| | 鹿児島市立美術館 | 橋口五葉氏のデザイン作品群（三越呉服店、日本郵政等のポスター） |